

2019年11月19日

～都内の小学校での研究授業に協力～

今般、日本船主協会からのご依頼により、弊社から講師を派遣し、11月13日（水）に東京都内の小学校5年生の社会科授業において、コンテナ船及びコンテナ物流について説明する機会を得ました。

授業冒頭では、担任教員より、事前授業で出たLNG、原油、自動車などはLNG船や自動車専用船など専用船で運ばれていること、専用船以外で運ぶ衣類、食料品、家具や家電などはコンテナ船で運ばれていることが紹介されました。

その後、弊社講師により、コンテナやコンテナ船の大きさを人や東京タワーと比較しながら、最大級のコンテナ船は約400mもあり、一度に約2万個のコンテナを運ぶことができるなど画像を使いながら説明し、児童から「コンテナを運ぶ際に海に落ちたりしないのか」「運ぶモノによってサイズを変えているのか」「どのようにコンテナを積み下ろししているのか」「コンテナの中身は腐らないのか」等の質問が矢継ぎ早に出ました。また、普段使っているものがどのようにして自らの手に届くかについて、コンテナが港に着いてから消費者に届くまでの過程も説明しました。



(消費者に届くまでの過程を説明)

最後に児童から「お客様にきちんと商品を届けるためにも、安全第一で仕事をしていることが分かった」「コンテナ船は温度を管理するなどたくさんの工夫をして輸出入を支えている」など授業で学んだことの発表があり、短い時間でしたが海運の大切さについて学んでいただけたのではないかと思います。



(授業風景)



(教員作成のコンテナ模型を使って説明)